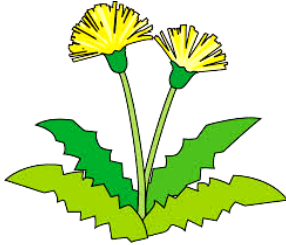


JAUW 茨城支部だより

2014年度-4号

URL <http://jauw-ibaraki.net/> 2015年3月2日 (一社)大学女性協会(JAUW)茨城支部



今年の節分、私はつくば市鬼ヶ窪にある特養ホームの豆まきに参加しました。節分の定番口上の「福は内、鬼は外」がなんとこの鬼ヶ窪では「あちはあち、こっちはこっち、鬼ヶ窪の年越しだぁ」と言って、あちこちで追いやられ、逃げこんできた鬼を迎い入れ、新春(春分)の豆をまくのだそうです。これこそ節分の風習に「あち、こっちの多様性」「鬼を迎え入れる受容」がこの小さな地方に生きているような気がして独りうれしくなりました。さて、2014年の支部だより4号で私がこの欄を担当するのも最後になりました。4年間、会員の皆様のサポートがあってこそ続けてこられたことに心から深く感謝申し上げます。まだ総括するには少し早いのですが、今年度は1:茨城支部の主たる活動の男女共同参画調査結果が様々な啓発活動、出前講座、外部機関などでも活用されていること、2:これらの事業を通して若い会員が積極的に関わっていること、3:高齢化による会員の減少傾向はやむを得ずとも、会員拡大に本気で向き合っている兆しがあることなど、茨城支部の活力を感じることができます。先日JAUW本部主催で「会員100名拡大を目指して」に松本会員、城倉会員と今高の3人が出席してきました。JAUWの強み、弱みなどについて意見を出し合い、本部支部の現状分析と活性化のためにどう行動していくか話し合ってきました。前向きでしなやかなのは強み、男性がいないのは弱みです。賛助会員として男性も巻き込んで「男女ともに輝く」魅力ある茨城支部を創っていきましょう。(今高支部長 記)

2015年度

茨城支部総会のお知らせ

日時: 2015年4月25日(土) 午後1:00~

場所: 水戸市文化交流プラザ(旧ビヨンド)

総会行事: 総会 (役員改選を含む)

報告: 国際婦人の地位委員会NGOフォーラム参加報告

「北京会議の総括と新しい課題」城倉会員

鑑賞: 水戸市美術館現代美術ギャラリー

現代アート鑑賞 山口晃展「前に下る 下を仰ぐ」



大和絵の様式を取り入れた、国内外に高い評価を得ている作家の作品で、都市鳥瞰図など代表的なものだけでなく、漫画・インスタレーションなど楽しみの多い山口ワールドを市民ボランティアCHCギャラリートークとともに楽しみましょう。(約40分)

出欠を同封のハガキで3月23日までにお知らせください

3月定例会のお知らせ

「私（私たち）を拓く」～ブリュッセル・ロンドン報告

ハーモニーフライト 2014 リーダーとして9/28～10/5 ベルギー・イギリスに飛び立たれた会員の長谷川典子氏からお話をお聴きします。今年度のフライトでは、①「次世代と子育て環境・教育」 ②「次世代育成と支援社会」の2つの課題を取り上げ、研修をされたとのこと。美味しい紅茶とケーキをいただきながら、興味深いブリュッセルとロンドン事情のレポートにわくわくしませんか？

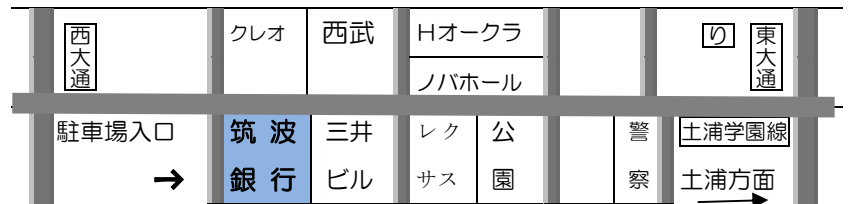
日時 3/28 (土) 13:30～15:00

会場 筑波銀行本部ビル 4階会議室 つくば市竹園一丁目7番

(駐車場は建物内2階以上をお願いします：1階は一般のお客様専用)

会費 500円(ケーキ、紅茶代)

申込 3月23日までにハガキ
ファックス・メールで
お願いします



茨城支部新年会



1月24日(土)は前日までの厳しい寒さとは打って変わって、新年会にふさわしい穏やかな1日になりました。静間、保田両先輩もお元気な姿を見せてくださり、華やかな雰囲気の中、京成ホテルにて12時に開会。支部長挨拶に続き、黒1点ご出席くださいました県知事公室女性青少年課課長補佐(男女共同参画担当)山本様よりご挨拶及び次のようなご報告をいただきました。

茨城支部が昨年度まとめた調査報告書「地域で共に生きるには一高等学校家庭科における男女平等の現状と課題」の抜粋版を作成し、県が昨年度夏に実施した若手教員のための初任者研修や、家庭科教員の集まりなどでその抜粋版を活用したこと、そして来年度も機会を見て県内の高校生の

考え方を紹介していきたいと述べられました。支部の調査活動を評価していただき、さらに背中を押していただいたような気持ちが致しました。

続いておいしいコース料理を頂戴しながらの懇談。お食事の後、会場前の広いテラスに出て青空の下で記念撮影をしました。しばし休息の後、茨城大学名誉教授酒井はるみ会員のお話“MY WAY”を伺い、私たちにとって忘れてはならない時代の出来事を振り返ることができました。役員の皆様を持ち寄ったお抹茶茶わん

点ててくださり、3時に閉会。誠に充実した楽しい新年会でした。役員の皆様、本当にお世話様でした。



でおいしいお菓子とお抹茶を

(三澤 記)

MY WAY =戦争と国際化の20世紀から多様化の21世紀を生きる=

酒井はるみ会員は1941年(昭16)年、後に原爆被爆者を多数収容した広島赤十字病院で生まれた。父親の勤務で中国モンゴル自治区張家口に居住、敗戦により引揚げ者となる。私たちは国に捨てられたが、現地の軍隊が軍務に背いてまで全員の引揚げに全力を尽くし無事帰国がなかった。1946(昭21)年父親が英連邦軍本部尉官の通訳を勤め、民主主義を知る。幼少時から民主主義を教え込まれる。広島市郊外の公立小学校で学び、広島大学付属中学校・高等学校を経て、お茶の水女子大学(教育社会学専攻)に入学。次いで東京都立大学大学院で社会学を学ぶ。お茶大で新設の家政学部家庭経営学科助手として就職。この時期、日本婦人問題懇話会に所属し社会で活躍する女性たちと交流、キラ星のごとき「女性モデル」だった。「家」制度研究会では法社会学・比較法学・政治学などに触れ学問の面白さを知る。ウーマンリブの時代には同年代の研究者・女性活動家・弁護士・女性政治家などとフェミニズムや女性学の研究活動や多領域交流を重ねた。1970(昭45)年大学院生(生化学専攻)と結婚。年子の男の子と4人家族に。子育てに追われる。

1974(昭49)年茨城大学教育学部家政科に赴任。家政学の家族関係学と家族社会学との違いを考えたり、男女共学の家庭科をめざす。

1980(昭50)年ミシガン州立大学訪問研究員(女性学研究)、息子2人と渡米する。1997(平9)年カナダトロント大学訪問研究員(女性学・ジェンダー研究)。大学内外で暮らすゲイ・レスビアンと接する。茨城大学では女性学関係の文献を多数購入、夫婦別姓使用を実現、「キャンパスセクハラ防止規則」の作成、公開講座「女性学」など女性の地位に関わる教育・研究・環境の改善に努めた。2007(平19)年茨城大退職。多様化がキーワードの21世紀家族は多文化主義とジェンダーの視点から分析すれば新たに見えてくるものがありそうと考えている。

酒井さんの70余年の人生は生きてきた重要な事柄が源泉になっていると考えられる。広島での生育で反原発、引揚げ時の差別経験から反差別、民主主義の深い内面化で男女や性的少数者・民族の平等、夫婦別姓などとして具体化しているようだ。(保田 記)



女性団体等人材育成セミナー

茨城県女性団体連盟主催により12月6,7日2日間にわたって人材育成セミナーが行われました。

第1回講座「政策決定の場で活躍する女性リーダー」として高萩市長の小田木真代さんのお話です。「女性が輝く社会を作るために」審議会参画の際は遠慮せずに言いたいことはきちんと伝えてほしい、社会変化に対応できる能力を身につけること、トップダウンでなくボトムアップ方式でやる気を起こすことなど、ご自分の経験から男性社会の中で活動し、切り開いていくための知恵など伝えて頂きました。

第2回講座 鬼沢慎人さんには「未来を作るリーダーシップ」として地域活性化実践につなげるリーダーの資質を磨き、人間関係協力を得て成果をあげられるようにするための話をして頂きました。どう人をまとめ、動いてもらうか、ボランティア活動ではお金、権限では人は動かす、共感だけが人を動かす。活動の目的とビジョンを「私」を主語にして語ることで人は動くと言われました。

2日目は、**第3回講座**、島袋典子さんから地域のコーディネーターとして地域産業の活性化のために情報発信や企画立案されている実践例などの話を聞きました。

第4回講座は国内線、国際線チーフパーサー資格を持つ飯塚順子さんから、第一印象は視覚によって80%決まり、第一印象を与え直す2回目のチャンスは決して訪れないなどの諺をひきながら「自分磨き」のお話をして頂きま



した。参加者の声として自分自身の小ささを感じる、人の話を聞く大切さを教えてもらったなど、かなり内省から発展につながる講座ができたように思いました。(今高 記)



「新春のつどい」に参加して

恒例の本部主催「新春のつどい」が例年おなじみの京王プラザホテルで、今年も1月10日に開催されました。会長のあいさつ後、第1部として2014年度国内奨学金贈呈式があり、一般奨学生6名、安井医学奨学生1名、社会福祉奨学生3名の選考経過報告と、奨学金贈呈、奨学生のスピーチが行われました。今年は残念ながら茨城からの奨学生は出ませんでした。次年度以降にまた期待したいと思います。

第2部として2002年度社会福祉奨学生である、木村りえ・りさ姉妹によるピアノの連弾が披露されました。筑波大学付属盲学校・高等部音楽科卒業後、別々の大学でピアノを専攻し、いくつものピアノコンクールに入賞、ソロ活動やオーケストラなどとの共演も含め、演奏活動を行っているとのこと。楽しい解説と共に息の合った連弾を楽しみました。5月の定期会員総会開催支部の渋谷由美子仙台支部長の乾杯で始まった会食・懇談後、支部紹介があり、今高支部長から茨城支部の活動の報告後、松本調査・研究担当理事、城倉女性エンパワメント委員長、牧島の4名が紹介されました。4人は同じテーブルで、2名の奨学生と共に、文化人類学のテーマ「現代キューバのクラシック音楽」などについて楽しい会話が弾みました。観劇会や初夏のコンサート、「2014年度国際奨学生の研究報告会」などのお知らせと共に「会員100名拡大を目指して!!」のワークショップのお知らせがありました。1月末に東京で、2月半ばに芦屋市で、山下CIRがコーディネーターとして、有意義な学びができたことと思います。一人でも多くの会員増につながることを願ってやみません。

(牧島 記)

茨城県女性団体連盟「連盟のつどい」

午前の「ハーモニーフライト 2014」の報告会では、訪問したイギリスとベルギーの子育て支援・教育費のこと、日本にはない生活支援の仕組みが報告された

午後からは落合恵子さんの講演でした。今の社会には様々な差別があること、特に「レイシズム(人種差別)」「セクシズム(性差別)」「エイジズム(年齢差別)」「エイブリズム(健常者中心主義)」は社会の鎖となっていることを様々な表現で説明された。実例として1945年に未婚で落合さんを生み想像を絶する差別や偏見の中、重圧から神経症になりながらもたくましく生きてきたお母様の人生と、お母様を7年間にわたり介護したときの出来事を赤裸々に話された。涙ながらに聞き入る方もいた。「私を好きな私になる」こと、差別される側の人生や人の痛みに対する想像力を持つこと、それぞれの違いから学び「人の数だけ価値観があるのが健康な社会」であると理解すること、女性が背負ってきた重荷(差別)を次世代の人に背負わせないこと、ネットワークを広げ次世代の明日のために行動すること、など落合さんの差別と闘う強い意志が会場全体に伝わり講演は本当に説得力があった。



最後に落合さんお気に入りの歌「空より高く」を聴かせていただいた。人生にエールを送る歌詞で今では卒業式で歌われているそうだ。年齢も性別も関係なく「いろいろな私」を生きられる社会にするために私たちも常に考え行動することが必要なのだと感じた。

(上月 記)



編集後記：今年は例年になく寒い日が続き体調を崩した方も多かったのでは。

やっと春の日差しが見えてきました、久しぶりの編集・・・短い時間に四苦八苦。(Y)